第 111 号　全国脊髄損傷者連合会神奈川県支部　令和　３年　３月１２日

和 やわらぎ

SSKP

発行
全国脊髄損傷者連合会
神奈川県支部
〒252-0207　相模原市中央区矢部新町1-9-101
電話　０４２－８５２－３５２５

編集人
赤城　喜久代

一九七七年十二月三日第三種郵便部認可
二〇二一年三月一二日発行（毎月十八回一・二・三・五・六・七の日発行）
ＳＳＫＰ通巻第七六一二号

ホームページ　http://www.max.hi-ho.ne.jp/yawaragi/
メールアドレス　yawaragi@max.hi-ho.ne.jp

コロナ禍の募金活動。首からの募金箱もなく、恒例の「赤い羽根、ご協力お願いします」の声は、テープで流れる。それでも募金はありました。皆さんへの感謝です。

令和２年度の活動報告と今後の予定　…… 2
支部長　赤城喜久代
第 43 回全国脊髄損傷者連合会
関東甲信ブロック大会会議に参加して　… 3
事務局長　小暮　進
新型コロナウイルス発生に思うこと　…… 4
川崎協会　田辺昌美
コロナ受け入れ病院に従事して　…… 5
県央協会　小暮　進
研修会　…… 6
健診等の結果を正しく理解して…
講師　小島久美子氏
報告　北島さとみ
チョコっとモン・サン・ミッシェル　…… 7 ～ 12
支部長　赤城喜久代
会員動向　…… 13
編集後記　…… 13

令和２年度の活動報告と今後の予定

支部長　赤城喜久代

令和２年度はコロナに始まり、コロナに終わる年になってしまいました。その間、支部のイベントはほとんどできず、唯一、川崎協会のセミナー「検診等の結果を正しく理解して、自分の身体状態を改めて理解しよう」という講演のみが開催できました。

この講演は保健師の小島久美子氏のお話でしたが、先生はセミナーの１週間前ごろに、ご自身の大腸がんの手術をなさった事。しかも、手術は内視鏡の手術で、難しいものであった事等、貴重な体験をお話いただきました。

コロナ禍の中のセミナーでもあり、集まった人は少なかったのですが、とても有意義な講演でありました。

年が明けて３月にいちご狩りを予定していましたが、コロナ感染が衰えない中、中止にせざるを得ませんでした。そして、なんといっても支部活動で力を入れている、障害者の相談支援事業が全くできなかった事はとても残念でなりません。

そういう状況でありましたが、神奈川県支部は長年にわたり、各地域にて共同募金活動を行ってまいりました。この度、その活動が評価され、支部が厚生労働大臣表彰を受けることができました。大変喜ばしい出来事と言えます。

さて、安心して以前と同じ生活ができるには、ワクチン接種ということになるのでしょう。

そのワクチン接種に関する、国の方針としては、２月の半ば医療従事者、次に高齢者その後一般の人達となっていくようですが、接種を望む人全体にいきわたるには、かなり時間がかかるのではないでしょうか。

そういう中で、支部としましては、毎年夏に行っているランチ会等、会食が伴うことは無理としても、秋以降ならコロナ感染も、多少良い方向へ向かうのではないかと思われます。感染に十分気を付け、できる範囲での支部活動は行いたいと思っております。

特に、昨年中止しました「ロボット利用で広がる障害者の未来」は私たちにとって、非常に大事で重要なことであります。今年度も神奈川工科大学の先生にご協力いただき、ロボット４台をお借りする予定になっております。実際にご自身で、ロボットに触れ、ロボットを操作し、どのようにご自分の生活にロボットを取り入れたら、よりよい生活ができるかなどを、体験により実感してもらえたらと思います。

その他、今年は関東ブロック会議と、ブロックのピアサポート研修会を神奈川県支部が担当する予定です。

そして、年４回行っている、ピアサポート相談会はぜひ開催したい事業であります。

しかし、事業活動よりも私たちにとって最も大切なことは、命を守ることであります。今年度は、コロナ感染に最善の注意を払いながら、支部活動を行ってまいりたいと思っております。

脊髄損傷者連合会神奈川県支部「和」1977年12月3日第三種郵便物認可（毎月18回 1･2･3･5･6･7の日発行） 2021年3月12日発行 SSKP通巻7612号

第43回全国背髄損傷者連合会
関東甲信ブロック大会会議に参加して

事務局長　小暮　進

今大会は神奈川県横浜市のパシフィコ横浜で、令和２年９月５日に行われました。

まず、ブロック会長の高橋宏晶さんから開会宣言があり、群馬県支部長の飯塚智宏さんから、歓迎の挨拶がありました。次に本部の安藤信哉事務局長から本部挨拶がありました。議長として群馬県支部長の飯塚智宏さんが選出され、副議長として神奈川県支部の小暮が選出されました。

その後、各支部から令和元年度の活動報告、続いて令和２年度の現在までの活動報告がありました。

次に、支部からの提案事項として長野県支部の玉木支部長から、災害の支援要求がありました。これに対して本部からの回答として、各支部から三万円、各代議員から五千円を拠出するということで合意されました。

次に、関東甲信ブロックの会計報告がブロック長の高橋宏晶さんから報告がありました。

その中で、今年の全国総会がコロナまん延のため中止になったので、先にブロックから千葉県に拠出した十万円は、一旦ブロックに返還して、その後、千葉県は本部に請求するようにということで話はまとまりました。

その後、議長、副議長は解任され、ブロック会議は群馬県から神奈川県に引き継がれて、今回のブロック会議を終えました。

脊髄損傷者連合会神奈川県支部「和」1977年12月3日第三種郵便物認可（毎月18回 1･2･3･5･6･7の日発行） 2021年3月12日発行 SSKP通巻7612号

新型コロナウイルス 発生に思うこと

川崎協会　田辺昌美

今年もコロナ禍で毎日不安と恐怖で戦っていると思います。昨年暮れに新型のウイルスが出てきたとの報道を見た時、まさかこんな事態になるなんて、50年以上生きてきて本当にびっくりしています。

でも1年前の正月明けには腹腔動脈解離で入院し、それどころでなかった（笑）のですが、ダイヤモンドプリンセス号のあたりから「大変なんだ！」となり、ヘルパー事業所からはヘルパーの感染リスクも高くなるから「外出しないで！」と電話がきました。

「あなたと出掛けると危険」と言われている様に感じました。結局何人か辞めてしまい、外出時のヘルパー不足で、今でも外出制限がかかりスポーツ大会等にも行けません。

3月下旬に風邪を引き病院へ行きましたが、完全にコロナ扱いで冷たい態度でした。診察してくれた医師も怖がり、私はつい抗議してしまいました！

今も東京、神奈川、全国的に増えています。有名人の死亡等大変悲しかったです。4月が過ぎて緊急事態宣言が発令された時点で、とんでもなく恐怖になりました。

病院は電話受診になり、処方箋は病院から薬剤師に転送され、ヘルパーさんに何度か取りに行って頂きました。

マスクや消毒用アルコール、紙類がなく震災の時より酷かった！　マスクの価格が10倍位に跳ね上がり、家族総出でマスクを手作りして急場をしのぎました。

今でも東京は９００人を前後し、神奈川県も東京の半分程度の感染者が出ています。こうなると失業者が出て犯罪につながるし、障害者の雇用も少なくなるどころか弱い立場から切り捨てられてしまいます。なんとか政治家さんに皆の生活が平和になる様に思案してほしいです!!

最後に付け加えますと、ヘルパーが不足している上に外出支援より居宅支援の単価が良いそうで、これも悲しいし悔しいです。

最近通院が増えたから不安でなりません。とにかくコロナの退散は無理としても、安全なワクチンや治療薬が開発されて国民を安心させてほしいと神に祈りたいです。

脊髄損傷者連合会神奈川県支部「和」1977年12月3日第三種郵便物認可（毎月18回 1･2･3･5･6･7の日発行） 2021年3月12日発行 SSKP通巻7612号

コロナ受け入れ病院に従事して

県央協会　小暮　進

日本で初めてＣｏｂｉｄ―１９（新型コロナウイルス）が発症したのは２０２０年２月初旬です。

その患者（ダイヤモンドクルーズ乗客）が運ばれてきたのが、私の勤務している病院です。まだ〝コロナ〟という病名がＴＶにも流れていない頃です。

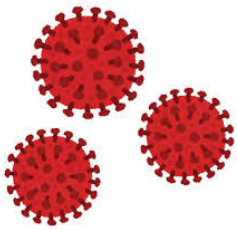
その頃、相模原中央病院で院内クラスターが発生し、外来がストップしました。ＪＲ町田駅の職員が感染し、私の勤務する病院の研修医（４年生）がマスクをせずに診察していたのが２０２０年３月４日です。

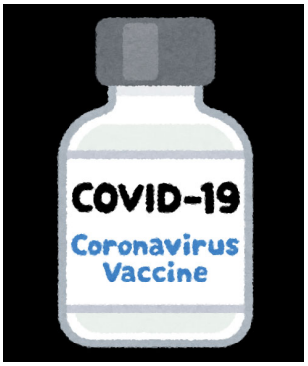
その翌日、ラインで全職員に３月５日・６日は外来をストップするので自宅待機命令が出ました。その後は、３月～８月まで病院の待合室は静まり返った誰もいない状態でした。

毎日、３・１１の東北震災の後の風評被害を受けた農家のように患者は寄りつきません。２０２０年の夏のボーナスは全員２割カットでした。仕事がないので毎日掃除ばかりしていました。困ったのは病院の清掃会社です。患者がいないのでゴミもなく、暇があっても金はなし。

ここで新型コロナで思い出されるのが、その昔肺炎、髄膜炎、ジフテリア、感染症全般に対して効力を持っていた〝ペニシリン〟を発見、世界初の抗生物質、つまり細菌キラーの発見によってあらゆる医薬品に革命を起こしたのが〝アレクサンダーフレミング〟（１８８１－１９５５）です。

「こころの準備ができていなければ、目の前のチャンスを見つけることはできない」まさしく「偶然から奇跡の発見」を成し遂げたのが、アレクサンダーフレミングです。ペニシリンに負けないような薬が、早く開発されることを願ってやみません。





研修会

健診等の結果を正しく理解して…

～自分の身体の状態を改めて確認しよう！～

講師　たかつ基幹相談支援センター
障害者相談支援専門員
保健師　小島久美子氏

開催日時　令和２年11月29日（日曜日）
13：30 ～ 16：30（休憩20分）

開催場所　川崎市国際交流センター　２階
第４・第５会議室

今回は新型コロナウィルスの発生により、例年にはないこぢんまりとした研修会となりました。参加者はスタッフを含めて13名、感染予防対策を十分に取りながら開催致しました。

脊髄・頸髄損傷者であっても、特定健康診査を受けることや病院で血液検査をする機会はあるかと思います。でも、手にした結果を見て基準範囲と比較しているだけで、検査項目の正しい意味を理解していないのではないでしょうか？　そこで検査項目の各々の意味を正しく理解し、生活習慣病等の早期発見と予防に対する知識習得を図るための研修会を企画いたしました。

開会の挨拶、プロフィール紹介のあと、さっそく検査表の見方や各項目の注意点等を詳しく説明していただきました。参加者は持参した検診結果を手元に置き、数値の比較だけではなく、いくつかの項目の総合的な評価で判断するということも知ることができ、頷く様子が見受けられました。

私はといえば知る人ぞ知る〝ふくよか〟な体形ですが、これまで内臓系に問題がないのが自慢でした。ところが、前日に届いた封筒を開始直前に開けてみると、なんと要精密検査と記された黄色い用紙が入っていてビックリ！これで後半に行われる個別相談を受ける材料ができてしまいました。個別相談にも希望者は多く、検診結果に関しては勿論のこと、日頃気になっていることも気軽に相談する事ができとても好評でした。私は、年齢的なことや投薬の影響で数値が上がることがあるので、訪問診療の先生と相談しながら様子をみていくことを勧められました。掛かり付け医がいることの重要さ、そしてなによりも健診によって早期発見し大病をくい止めることの大切さを改めて理解することができました。

今年は残念ながら第２部の懇親会も開催できず、寂しき解散となりました。次回は多くの皆さんと有意義な時間を持てるように、一日も早いコロナの終息を願っています。

報告　川崎協会　北島さとみ

脊髄損傷者連合会神奈川県支部「和」1977年12月3日第三種郵便物認可（毎月18回 1･2･3･5･6･7の日発行） 2021年3月12日発行 SSKP通巻7612号

チョコっとモン・サン・ミッシェル

支部長　赤城　喜久代

２年程前、モン・サン・ミッシェル旅行に挑戦しました。日本人に大人気の世界遺産の一つですが、車いすは無理だろうとあきらめていました。とはいえ、無理かどうか一応調べてみることにしました。結果、時間はかかりましたが行けることがわかったのです。

一般的に、モン・サン・ミッシェルへは、パリから日帰りバスツアーを利用する人が多いようです。残念なことに、そのバスに車いすは乗れません。では、車いすタクシーはどうなのでしょう。

パリに車いすタクシーの業者は数社あります。ありますが、パリ～モン・サン・ミッシェル間は費用が相当かかります。日本からパリまでの飛行機代以上でしょう。

車いすユーザーにとって、モン・サン・ミッシェルまでの道のりはとても遠いと言えます。普通なら、ギブアップというところかもしれません。振り返れば、一人旅の時など何度もトラブルに合いましたが、その度に何とか乗り越えてきました。当然、簡単にあきらめる訳にはいきません。

まず、パリからではなくブルターニュ地方の、レンヌからのルートを調べてみました。

レンヌには、車いす用のタクシーは見当たりませんが、車いす用のレンタカーの会社が見つかりました。そこで、レンタカー会社にこちらの事情と人数等を伝え、運転手込みで車をレンタルできないか聞いてみました。しばらくして、お断わりの連絡が来ました。

その時ふと、仲間が運転できるのではと思い聞いてみましたが、返事は予想通り却下です。道路標識も日本とは逆、知らない土地で事故のことを考えると、運転は避けた方が賢明だと言えます。

紆余曲折ありましたが、何とかモン・サン・ミッシェルまでたどり着けそうな見通しはたちました。

ルートは、パリ又はシャルル・ド・ゴール空港からレンヌへ入り、レンヌから路線バスで1時間、その後無料のモン・サン・ミッシェルの送迎バスに乗り換えるという方法です。偶然にもネット検索時に、バスに車いすマークが付いているのを発見しました。バス停にはフランス語で、車いすでのアクセス可能と書かれているようです。

念のため、日本にあるフランス政府観光局に問い合わせをしました。観光局から、モン・サン・ミッシェル行きのバスには乗れますが『24時間前までにバス会社へ連絡のこと』とある。「電話は難しいでしょうからメールでいいです」という返事がありました。それを聞き、せっかちの私は約3週間前に連絡をしたのでした。

日本を11月末の初冬に出発し、パリに着いたのがその日の夕方。レンヌへは、パリのモンパルナス駅発が本数も多く、一般的なコースですが、シャルル・ド・ゴール空港から直接、レンヌ行のフランス新幹線（TGV）に乗ることにしました。

空港からは本数が少なく、3時間以上の待ち合わせになります。長い待ち時間ですが、空港からタクシーでパリ市内まで1時間。当日パリ観光の時間はほぼなく、ホテルは単に寝るためだけの利用になります。宿泊費の高いパリに滞在するのは、得策ではないと考えました。

空港では国鉄職員がホームまで案内してくれました。その若い職員は日本のアニメが大好きなようで、アニメの話でひとしきり盛り上がりました。愉快な駅員さんを残し、丁度入ってきた列車に乗り込みました。

予定通り空港を出発した列車は、夜の10時少し前にレンヌ駅に到着。駅で軽く食事を済ませ、そこから5分位のホテルへと急ぎました。

次の日、朝食前にバスをチェックしにチケット売り場へ行き、カウンターの若い男性に「車いすでバスに乗れますか」と聞いてみました。するとその男性は「わからない」と応えました。想像もしていなかった言葉に驚きです。

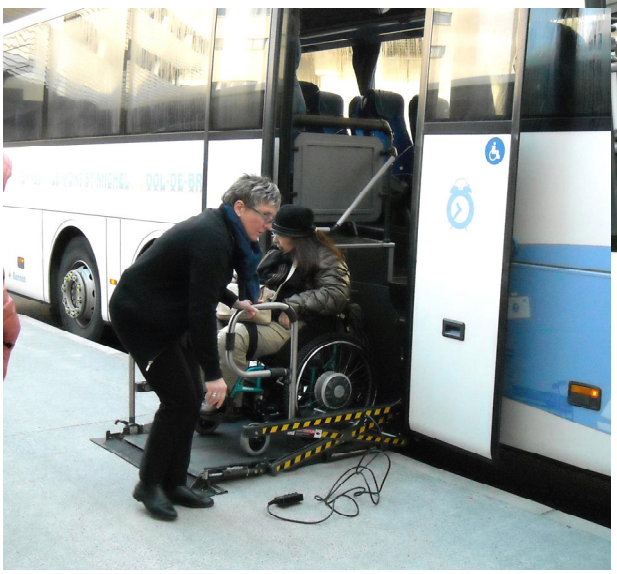
時刻は午前8時を過ぎたところ。会社は9時過ぎでないと確認できないという。らちが明かないので、ホテルへ引き帰し、ホテルで聞いてみることにしました。

レセプションの女性にバスのことを尋ねると「車いすでバスに乗れます」と教えてくれました。

得てしてこういう場合、ホテルの方が知っていることが多いようです。数分前には『ここまで来て行けないのか』と一瞬思いましたが、その言葉を聞きほっとしました。

チケット売り場へ戻り、車いすの乗車は可能だと伝えると、先方から「24時間前までに連絡が必要」と言われたので、大分前にメールしたことを伝えましたが、見つからないようでした。原因は、送った部署が違っていたのか、早すぎたことが一因なのかはっきりしませんが、季節外れなのでチケットは簡単に取れました。そういう問題もありながら、ようやくバス停まではたどり着くことができました。

さて、いよいよモン・サン・ミッシェル行きのバスが到着です。車体右側の真ん中のドアが左右に大きく開きました。バスには階段が3段あります。『これにどうやって乗るのか？』日本でも2段のバスはありますが、3段は見た



ことがありません。『長いスロープでもかけるのか』と、不思議に思ってたたずんでいると、バス会社の女性がやってきて、機械の操作を始めました。ウィーンという音と共に、三段の階段が形を崩しながら下まで降りていき、最後は一段の広さとなり止まったのです。つまり階段自体がリフトになり、最後の一段が車いすのスペースになるというわけです。

バスに乗り込むと、車いす用のスペースはその一台分のみです。一台では、世界中から訪れる車いすユーザーには応えられないでしょう。それ故『24時間前までに、連絡しなければならない』という決まりがあったのでしょう。バス便は一日たったの四便しかありません。しかもフランスが世界に誇る世界遺産です。せめて、もう1～2台、車いすが乗れるスペースが欲しいものだと思いました。

しばらくしてバスが発車しました。程よい揺れに身を任せているうちに眠気が襲ってきて、うつらうつらしていたようです。

気が付くと、バスはモン・サン・ミッシェルのある村に到着していました。レンヌのバス乗り場から大体1時間位かかりました。

私たちは、ブルターニュ地方から入りましたが、モン・サン・ミッシェルは、正確に言うとノルマンディー地方に位置します。ノルマンディーというと、そう、あの有名な『史上最大の作戦』の地です。

ターミナルでバスを降り、そこから無料のシャトルバスに乗り換え、モン・サン・ミッシェルの中まで入っていくことになります。

砂地に浮かぶ島、モン・サン・ミッシェルは、中世に修道院が築かれて以来、巡礼の地として栄えてきました。この付近一帯は、潮の干満の差が激しいことでも知られてい

ます。満潮時には驚くべき早さで潮が満ちます。大昔は、修道院を訪れた巡礼者が命を落とすこともあったようです。長い橋を渡り、建物のすぐ近くまではバスでわずか５～６分位です。

シャトルバスの車中からモン・サン・ミッシェルが見えてきました。城壁は昔要塞としての役目も果たしていたようですが、バスが絶好のビューポイントへ差し掛かったので、橋の途中で一旦降りました。橋の上をゆっくり、モン・サン・ミッシェルへと近づいて行きました。遠かったここまでの道のりを思い出しながら、その堂々とした個性ある建物に目を奪われ、しばらく見入っていました。

モン・サン・ミッシェルは、動画も公開されていますが、潮の干満によりその姿は刻々と変わっていきます。特に夜のとばりが降りる頃、ライトアップされた建物が闇の中に浮かび上がる様は、幽玄の美ともいえる趣があります。

島の入り口の門を中に入ると大通りになっていますが、大通りとは名ばかりの細いメインストリートです。両側には土産物屋やレストラン、ホテル等がひしめいています。

時期は初冬、メインストリートに人影はほとんどなく、しかも道路は全面工事中、車いすでは通り抜けできません。メインストリートを抜けていくと、最上階の修道院へ行くことができます。

予定していたのでしょう、元気な二人が「行ってきます」といって、道路脇を沿うように修道院を目指して行きました。残された私達は、お土産屋さんで時間をつぶし待っていることにしました。

30分ほど経ったころ息せき切って、修道院へ行った二人が帰ってきました。お昼もだいぶ過ぎ、お腹もすいていたところです。

「有名なオムレツでも食べようか」ということになりました。

丁度目の前は、有名なオムレツ屋さんですが、入り口には30センチ位の段差があります。店内の女性に「すみません」と呼び掛けてみました。すると、こちらを見た女性は「ノー」と言ったようです。試しにもう一度声をかけましたが、やはり彼女は「ノー」といったのでした。あきらか

に『入店拒否』です。皆有名なオムレツを楽しみにしていました。仕方がないので「私ぬきで食べてきて」と言いましたが、腹を立てた仲間達は食べないことにしました。

フランスまで来て、入店拒否に合うとは、夢にも思わない出来事でショックでしたが、そこはグッとこらえて反対側のお店に入ることにしました。そこも二段の段差がありましたが、若い子が出てきて快く手伝ってくれました。

このようなことは、人によって対応が違うようで、どこの国でもあることなのかもしれません。

オムレツは食べられませんでしたが、もう一つ、この地方で有名なガレット（そば粉のクレープ）をいただきました。

翌日は、パリへ向かう予定でしたが、その前に朝市をのぞいてみることになり、電車で3駅ほどの市場へ出かけました。レンヌのあるブルターニュ地方は、海産物が豊富で有名です。

市場は駅から5分ほどの道のりです。土日だけやっているというその市場は、とても大きくいろんなものが売られています。足早に色々見て回る途中で、行列ができている所に引き寄せられました。何屋さんかとみるとチーズ屋さんです。フランスは農業国でもあり、とりわけチーズは種類も多く、美味しいと言われています。

早速行列に並び、スマートフォンの翻訳アプリを起動させました。順番が来たので「羊とヤギの半々のチーズをください」とスマートフォンで話をしました。〝完璧です〟店員さんにばっちり通じました。チーズは日本よりはるかに安いので、固いチーズ・やわらかいチーズ等などいろいろ仕入れました。他、ブルターニュ産の手作り塩を発見、珍しい塩なので、ついでにそれらも購入。結局、チーズと塩はフランス土産となったのでした。

市場を後にし、お昼少し前レンヌ発の新幹線（TGV）、モンパルナス行の1等車に乗りました。フランス国鉄（SNCF）は、車いす席は1等車にありますが、運賃は2等車の料金です。話に花を咲かせているうちに、時間は瞬く間に過ぎて行き、窓外に目を移すと列車はモンパルナス駅のホームに、静かに滑り込んでいく所でした。

モンパルナス駅からホテルまでの移動は、タクシーを利用するのが簡単です。それも考えたのですが、96番バスはパリ観光も兼ねた黄金ルートだと知りました。バスからパリ見物もいいかもしれないと思い、96番バスでホテルまで

行くことにしました。

96番のバス乗り場で待つこと30分超、バスはなかなか来ません。通りかかったフランス人が、早口で何か言い残していきましたが、何を言われたのかわかりませんでした。しばらくして、周りを見回すとバスが1台もいないことに気が付きました。そこで初めて、フランス特有の、ストライキではないかということに、思い至ったのでした。

パリ市内は、車いすでの交通アクセスは充分とは言えません。バスであれば、市内は全線乗れるようになりましたが、地下鉄は大部分が乗れない状態です。

モンパルナス駅は大きな駅ですが、地下鉄は乗車できないことを知っていました。しかもホテルは反対側、セーヌ右岸のレ・アール地区にあります。ホテルまで可能な手段はタクシーかバスのみです。

駅に一旦戻り対策を練ることにしました。しばらく、駅構内をうろついていると、車いすの男性が通りかかりました。勇気を出して「車いすタクシーを知っていますか」と聞いてみました。彼は知らない様子でしたが、力になってくれそうだったので、ついて行きました。脊損みたいですが、駅構内をスイスイと移動します。遅れずに付いて行き10分前後走った時、車いすの相談所がありました。

そこのリストに載っている、車いすタクシーの会社に電話してくれましたが、全く繋がりません。

健常者を連れた彼は、どこかに行く途中だったようです。時間も大分経過し申し訳ないので、車いすタクシーをあきらめ、彼に「普通のタクシーで行きます」と言うと、ほっとした顔をしたようですが、タクシー乗り場まで連れて行ってくれました。

タクシー乗り場には、客待ちのタクシーが4～5台並んでいました。4人分の荷物と電動車いすがあるので、2台に分乗するしかありません。1台目は車高が高い車で、運転手も気持ちよく受けてくれました。2台目は、普通の乗用車で高さが合うので、乗ろうとしましたが、運転手は何やら渋っています。車いすが嫌なのか、助手席をあけるのが嫌なのか、私が後部座席に座ると『あれっ？』という顔をしていました。フランスのタクシーは、昔から助手席に人を乗せたがらないと言われています。犬を連れている人もいた、という話を聞いたことがあります。

モンパルナス駅で想定外のトラブルがありましたが、無事にセーヌ対岸のホテルまでたどり着くことができました。見知らぬ外国人の私たちに、30分以上も付き合ってくれた、親切な車いすのフランス人に感謝です。

後でわかった事ですが、パリのストライキは、私たちがパリに入る前週の土曜日から始まった『黄色いベスト運動』と呼ばれるものでした。最初は、燃料価格高騰に対するものでしたが、最後はマクロン政権批判へと変わっていきました。パリはその年から毎週土曜日がデモの日となり、それから1年以上も続くことになるのです。

フランス人は、何事も徹底的に戦うという一面があるようです。一方では、『個人』・『表現の自由』等を大切にする国民性のようで、『大人の国』とも言われます。

私も数年前、エールフランスのストライキに合ったことがあります。そういうことを知りつつも、コロナが収束したらぜひ再訪したい国の一つです。

フランス4泊6日の、チョコっと弾丸・ドタバタ旅は、このような感じで終ったのでした。

脊髄損傷者連合会神奈川県支部「和」1977年12月3日第三種郵便物認可（毎月18回 1･2･3･5･6･7の日発行） 2021年3月12日発行 SSKP通巻7612号

会員動向

●死亡退会者

謹んでお悔やみ申し上げます

2020年2月22日	佐野　千佳志　様	西湘
2020年3月24日	路川　みどり　様	県央
2020年6月13日	笹原　千代乃　様	西湘
2020年11月21日	宝子山　正博　様	西湘

○退会者

2019年5月12日	舟瀬　英世	病気のため　西湘
2020年3月28日	川久保　晴美・川久保　真一	転居のため　県央
2020年5月13日	石井　清美	病気の為　川崎
2020年5月14日	清水　信正	病気の為　県央
2020年7月26日	城ノ上　友一	県央

○入　会

2020年5月30日	廣石　晃季	県央

編集後記

一年前の編集後記に「新型コロナウイルスもどうなることやら……。」と書きましたが、思った以上に大変な事態となりました。ワクチン接種も段階的に始まりましたが、副反応が怖くて接種を希望しないという声も聞かれます。先ほどファイザー社のワクチンの第2便が成田空港に届いたと報道されていました。

私たち重度の肢体不自由者は「基礎疾患を有する者」の対象になるようですが、訪問診療で受けられるのか、または病院や会場へ出向くのかなど不明な点ばかりです…。

とにかく迅速に多くの方がワクチンを接種できて、その効果が現れることを期待したいものです。

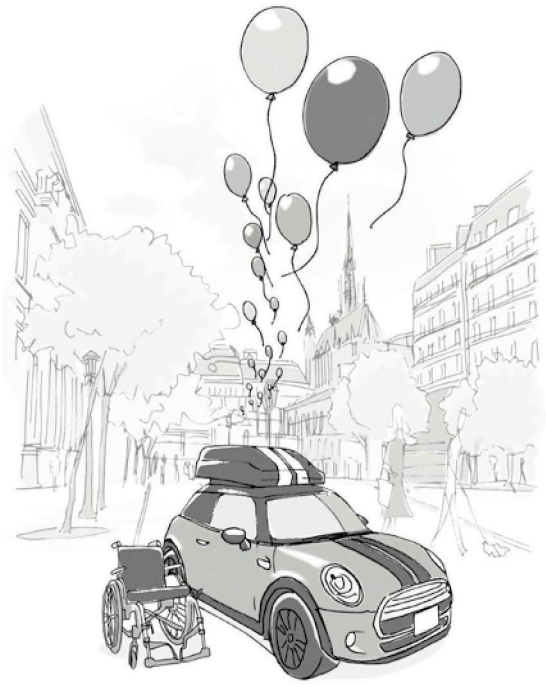
コロナ、コロナで気が滅入りますが、ぜひ支部長の旅行記を読んで、明るい気持ちになって下さい。

（S．K）

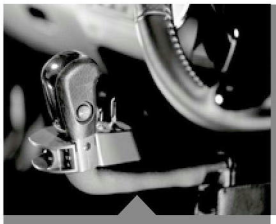
一九七七年十二月三日第三種郵便部認可
二〇二一年三月一二日発行（毎月十八回一・二・三・五・六・七の日発行）
SSKP通巻第七六一二号

アイのある技術で、ユニバーサル社会に貢献します。

ニッシン自動車工業は2016年4月より、
”株式会社ミクニ ライフ＆オート”と社名を変更し、新たなスタートを切りました。



Happy car life

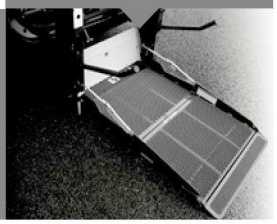


車いすを屋根上へ収納
車いす収納装置
オートボックス

車いすに乗ったまま
スムーズ乗降
リモコン式
乗降用リフト

手でアクセル＆ブレーキ
手動運転装置
APドライブ

車いすの積み降ろしを
サポート
車いす収納装置
ウィンチェア



福祉車両総合メーカー

MIKUNI life&auto
Mikuni × Nissin automotive industry

『神奈川県地区担当　正規代理店』

株式会社ニッシン自動車湘南
〒243-0812 神奈川県厚木市妻田北3-7-18
TEL:046-222-4341

株式会社 ミクニ ライフ&オート
〒349-1145 埼玉県加須市間口456-1
TEL.0480-72-7221
FAX.0480-72-7223
http://www.nissin-apd.co.jp/

京浜蓄電池工業株式会社
〒230-0046 神奈川県横浜市鶴見区小野町56-4
TEL:045-521-2915

編集人　相模原市中央区矢部新町一―九―一〇一
「和」編集部　赤城　喜久代

発行人　障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区祖師谷三―一―十七
ヴェルドゥーラ祖師谷１０２

特定非営利活動法人　定価　三〇〇円